

継続事業評価シート

評価実施日 令和4年3月31日

令和3年度(5年目)

事業コード	12	事業名	職場内の支援事例、支援手法の共有化			戦略コード	2	戦略名	プロ団体の商工会		
商工会名	潟上市商工会	担当者名	千葉 恵美子	総轄者名	安田 幸博	施策コード	5	施策名	事業者の企業力向上を実現する支援スキル研修への参加や情報共有の実施		

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

地域小規模事業者の経営課題が複雑化している中、これまで支援業務の中心であった記帳、税務、金融にとどまらず、事業承継や経営革新といった新事業展開やビジネスモデルの再構築など、より高度な支援が求められるようになってきている。

2. 事業のねらい

経営支援を通じて得られたノウハウを担当職員に留めることなく職場全体で共有することで、チーム支援による商工会としての生産性向上や支援機関としての支援力強化を図る。

3. これまでの評価結果

過年度	H29	—	H30	B	R1	B	R2	B
-----	-----	---	-----	---	----	---	----	---

・定期的な支援事例報告・支援手法の共有体制が定着しつつあり、日々の経営支援に活かされている。
・経営支援員も専門家派遣に同行するなど、事業者の課題に直面し、支援の幅を広げる姿勢が見られる。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

・職員会議や職種別会議による支援事例や支援手法の共有体制の定着。
・補助金申請や経営計画作成に係る相談案件の情報共有、相談案件の集約化と配分による迅速な相談対応体制の整備。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

事業内容	実績	達成度
・外部研修や経営支援を通じて習得した知識やノウハウの全職員への共有 ・専門家派遣事業への経営支援員の帯同	・定期的な会議等を通じて研修内容や支援事例、相談案件などを共有する体制が定着した。 ・支援員も専門家派遣に帯同して課題を共有、補助金申請及び補助事業の実施についても携わるようになった。	a

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

項目	支援の事例件数					項目	習得スキルの実務活用					項目						
	H29	H30	R1	R2	R3		年度	H29	H30	R1	R2		R3	年度	H29	H30	R1	R2
目標	3	3	3	3	3	目標	11	12	13	14	15	目標						
実績	5	14	12	7	8	実績	28	32	55	53	30	実績						
達成率	167%	467%	400%	233%	267%	達成率	255%	267%	423%	379%	200%	達成率						
達成度	a	a	a	a	a	達成度	a	a	a	a	a	達成度						

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない) **a**

〈評価の理由〉

高度化、多様化する事業者の支援ニーズに対応した支援を行っていくためには、個人だけでなく商工会全体としての支援が必要不可欠であり、日々の経営支援や研修等で得た知識や支援ノウハウを全職員で共有している。特に、コロナ禍で厳しい経営環境に置かれた事業者の支援を迅速に行うためには全員体制で臨むことが必須であり、それを実践する体制を整備した。

【有効性の観点】 事業目標の達成状況 【事業内容】「5. 事業内容と実績」「6. 評価指標と実績」の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合) **a**

〈事業の目標は達成されているかどうか〉

支援ノウハウの共有や相談案件など、会員情報を適宜共有することで早期課題解決につながっている。特に潟上市が独自に実施した支援金や補助金の申請支援においては、その効果が大きく発揮され、市と連携しながら手厚い事業者支援を行い、地域における商工会の存在意義を高めた。

【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)削減のための取組状況 コスト削減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない) **a**

〈コスト削減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉

情報交換や共有はメールやオンライン会議などを活用し、本支所間の移動コストを削減した。そこで得られた余剰時間は会員支援に充てられ、支援サービス向上につながった。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合 **A**

支援事例やノウハウを共有する仕組みが確立され、それが実践に十分活かされている。職員も意識的に情報共有やOJTを実践しており、5年間の取組成果が表れている。

3. 課題

共有した事例やノウハウを確実に実践することによる支援レベルの強化

4. 今後の対応方針(改善点)

これまでの取組で定着させてきたスキルの共有、実務活用を継続し、各職員が業務の幅を高度に広げていこうとする意識を高め、OJTの推進や職員間の協力・サポート体制を強化していく。